

1 戦友と馬を並べて

幾日幾日も絶え間なく

風は東から吹いていた

幾日も経ち 暑さが増す中

時は聖母マリアの祝祭日の頃

幾日も我らは共に馬を駈^かった

5

敵どころか味方の姿さえ見えぬ

澄み切った空の下 一段と増す暑さの中

ただ絶え間なく東風が吹いていた

輝く日差しの中

木々が漆黒の影を際立たせていた

10

兜の緒を解き 手綱を緩^{ゆる}め

我らは悠然と馬を駈^かった

我らは更に馬を駈^かった

緑^{ふち}縁なす流れを見下ろせば

明るい日射しの中に咲き誇る花々と

15

水面^{みなも}に泡立てる魚たちの姿が見えた

夜には共に横になり

頭上に聖十字旗を掲げた

辺りが夜露^{まと}を纏う中 見張りに徹した

月が木々を見詰めていた

20

翌朝 煌^{きら}めく槍を寄せ構え

旗^{なび}を靡かせ進軍した

向かい風に顔を向け

明るい日射しの中 ひらすら馬を駈^かりたてた

異教徒らが馬を寄せ駈^かけてきた

25

我らは六十本の槍を寝かせた

清^{せいちよう}澄な光の中 意を決した我が戦友^{とも}の顔が傍^{かたわ}らで

煌^{きら}めくのを見たのは それが最後だった

我らは共に橋を駈^かけ上がった
猛^{ただけ}々しく突き当たる槍が橋を揺らした 30
柔らかな春の日差しの中 蕾は雨の如く零^{こぼ}れ落ち
榆^{にれ}の花々は涙の如く散った

我らは皆 のたうち回り
私は頭上に両腕を振り上げた
麗^{うらら}らかな日差しの中 すぐ傍^{かたわ}らで戦友^{とも}の身体が 35
よろめき倒れ 空を仰ぎ息絶えるのが見えたから

戦友^{とも}を殺した仇と相對した
奴はただ 茫然と立ち竦^{すく}んだ
麗^{うらら}らかな日差しの中 我が狂氣^{ねめ}の顔を睨^{ねめ}つけながら 40
奴は死を悟って喘ぎ 倒れた

共に戦ってきた如く 決死の覚悟で戦うも
はかなし 異教徒どもは
我ら僅かな小隊を呑み込んだ
荒天の中 川が低地を呑み込むが如く

奴らは血に塗れた我が手を縛り 45
傍^{かたわ}らには最早力なき戦友^{とも}の亡骸^{からだ}を括り付け
三月の輝く日差しの中
シンバルの轟きと共に馬^かを駈^かった

我らは二度と共に馬^かを駈^かることはない
我を幽^{ゆう}する牢獄は堅固 50
最早 天色などどうでもあれ
心優しき聖人たちよ 願わくは我が命永く続かぬことを

(宮原牧子訳)